

「本校学校図書館の運営について」

令和6年8月27日（火）

大阪府立東高等学校

探究推進部長 石山貴裕

1. 図書購入費用の内訳

令和5年度

公 費：新聞2誌（読賣・朝日）	¥111,600	
雑誌6誌定期購読	¥92,352	
上期（6月）執行分（図書購入）	¥50,461	
補正予算（2月）執行分（図書購入）	¥99,957	計 ¥354,770
P T A費：上期執行分	約 10万円	
下期執行分（追加配当）	約 10万円	
進路指導部の図書購入費の残余	約 1万円	
校長マネジメント事業推進費：1月（教員用図書）	¥18,700	計 ¥18,700
寄贈図書・雑誌：教員による寄贈図書	¥121,406	
教員による寄贈雑誌（3誌）	¥19,340	計 ¥140,746

2. 図書購入計画概要

令和6年度

予算委員会により、探究推進部の公費予算を図書購入費込みで¥400,000確保

公 費：新聞2誌（読賣・朝日）	¥111,600	継続
雑誌8誌定期購読	¥97,140	雑誌見直し+¥4,788
上期（6月）執行分（図書購入）	¥67,891	+¥17,430
下期（10月以降）執行予定（図書購入）	¥100,000	+αがあるかも
P T A費：P T A予算総会により約 20万円（増額も視野に入れて相談中）		
校長マネジメント事業推進費：昨年度程度の補正見込	¥20,000	
学校経営推進費：採択1年目	¥42,295	

（ここから昨年度よりは増加させる予定）

3. 配架計画（文学作品に偏りすぎないように、学校図書館メディア基準の分配比率を意識する）

前年度1月：本屋大賞ノミネート作品10冊の発注、装備、配架、貸出

前年度2月：次年度の新聞・雑誌定期購読分の発注依頼（次年度予算、公費→事務経由）

当年度4月：始業式から図書館稼働→4月10日が本屋大賞発表日なので、この日までに
 端末の年度末処理と新入生の登録をおこなう（教務と連携を密に）

※4月に発注できる最大額で書籍の発注→GW前に間に合うように配架

この時に読書感想文コンクール課題図書を各2冊発注する

（事務・管理職と連携を密にして、振り出せる最大額を交渉）

当年度5月：P T A総会でP T A費からの図書予算の確保（学校の実情に応じて）

当年度7月：芥川賞・直木賞作品（受賞作品のみ）を含めた書籍の発注

※8月以降は予算配当と相談しながら、図書購入を進める

4. ジャパンナレッジ School の導入

今年度より、生徒費1年・2年で導入（学年単位の導入が必須） ※月額換算で280円弱
新書・文庫832冊（※2024年4月現在）を電子書籍で読める ※文芸書は含んでいない
事典・辞典類や年鑑・統計など、国英社と探究を中心に資料としても扱える
→教科・学年・探究・進路等との連携で運用中（運用方法については今も模索中）

5. 学校経営推進費による図書館改造

令和4年度：視聴覚室を探究的な学びの場へ→不採択（進学実績向上との関係性を説明できず）
令和5年度：図書室を探究的な学びの場へ→不採択（自習室機能との兼ね合いを説明できず）
令和6年度：図書室の自習室機能強化と探究的空間の創設、読書空間の再構築→採択

「東創究学（E-PLANET）」構想と命名、図書室の3機能を明確化させる

（図書館機能＋自習室機能＋探究空間機能）

今夏～9月上旬で図書室の改装予定

→紀伊國屋書店京橋店と「東高校の100冊」コラボを実施（本年9月）

文化祭やオープンスクールで来校する保護者・中学生を書店へ

2学期以降、2年生対象に「総合型選抜に向けての対策（探究）講座」実施

（株式会社カンザキメソッド、3か年計画で2年生→3年生→教員に講座開講）

※DX加速化事業も採択→視聴覚室とLL教室を探究的・データサイエンス的空間に改造

=【場】を創る、という「イメージ」をどのように訴求するのか？



- ◆総体的な「イメージ」を言語化して説明できるか（管理職も含め関係者全員が！）
- ◆プランを実施してから3年後の生徒のイメージを具体的・現実的に説明できるか
- ◆費用対効果をどのように「わかりやすく」伝えられるか（プランの弱点の補足）

6. 図書館×探究×情報（切り離せない3つの要素=これからの新しい学校の形）

「情報」は【どこに】集まって、どのように「探究」されるのか？

→この【どこに】の学校内での唯一解が【図書館】ではないか

GIGA端末による教育のDX化→教育はDX化されても、【場】は身体性を失わない

（web上にあるのは学びの【仮想空間】であって、学びの【場】ではない）

全教科の学びが集合する空間としての「図書館」を軸に、探究的な学びを深める必要性

→ただ、書籍にかけられる予算は年々厳しくなっていく（困ったことに……）

⇒だからこそこのジャパンナレッジ School の導入（新書は最低限にする）

+ 文学を生徒はやはり求めている（この部分の予算をどう確保するか）

★**図書館を動かせる教職員がいて、生徒に情報提供を積極的に行えば、利用者は必ず増える**

今後の課題として……

- ・高等学校間の相互貸借の仕組みを整える（コンソーシアムの構想）
- ・近隣の公共図書館との連携（公共図書館は学校との連携を想像以上に期待している）
- ・図書館の開館日、開館時間帯と「働き方改革」との兼ね合いをどうするか